

病防第198号
令和6年6月6日

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について

令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号を発表したので送付します。

令和6年度病害虫発生予察特殊報第2号

1 害虫名 : セグロウリミバエ

2 学名 : *Bactrocera tau*(Walker)

3 確認地域 : 沖縄県北部

4 確認の経緯

沖縄本島名護市で、ウリミバエ(*Bactrocera cucurbitae*)用トラップに令和6年3月14日1頭、4月25日1頭、5月9日4頭、5月23日1頭、伊是名村で5月22日1頭のセグロウリミバエのオスが誘殺された。

過去には、石垣島において平成10年及び平成15年に、同様にウリミバエ用トラップに本種オスの誘殺が確認されたが農作物及び野生植物への寄生は見られず、被害は確認されなかった。

沖縄県としては21年ぶりの確認となり、沖縄本島では初確認となる。

国内における誘殺事例はいくつかあるが、定着は確認されていない。

5 被害

本種は日本及び朝鮮半島を除くアジア全域に広く分布し、主にウリ科植物の生果実を加害することが知られている。主な寄主はウリ科(メロン、キュウリ、カボチャ、ヘチマ、ゴーヤー、トウガン、スイカ等)だが、その他トウガラシ、トマト、グワバ、インゲン、パパイヤ等にも寄生する。

寄主果実に産卵管を差し込み、産卵する。それにより産卵孔付近が壊死して果実の腐敗を引き起こしたり、幼虫が果実内部を食害することによって、商品価値が著しく低下するとされている。

6 形態および生態

成虫は体長約8~9mmで、頭部は黄褐色で触角下方に1対の楕円形の黒色斑がある(図2)。胸背部は全体に黒褐色で、3本の黄色縦帯がある(図3)。翅の斑紋は前縁帯の頂端に半円形の黒斑がある(図1)。腹部は黄褐色で、第2及び第3節背板に沿った黒色の帯状斑があり、第3~5節背板の正中線上に黒色の縦状斑がある(図4)。卵は白か黄白色で幅0.2mm、長さ0.8mm。幼虫は成長すると体長7.5~9.0mm、幅1.0~1.5mmである。

幼虫は果実内で生育し、老熟すると果実から脱出して土中で蛹化する。成虫の寿命は6か月以上である。

7 防除対策

- (1) 摘果した果実等の収穫残さは、ビニール袋に入れ密閉処分する。なお、本種は茎葉には寄生しない。
- (2) 施設栽培では側面、天窗、出入口に防虫網(目合2mm以下)を設置する。
- (3) ほ場周辺の野生寄主果実は除去する。
- (4) 庭の果実等に関しては産卵を防ぐため袋がけを行う。また、不用な果実は早めに除去し処分する。
- (5) 現在、耕作地における本種の防除に使用可能な登録薬剤はない。



図1. セグロウリミバエの成虫



図2. 頭部



図3. 胸背部



図4. 腹部



図5. 成虫 (撮影地: 台湾)

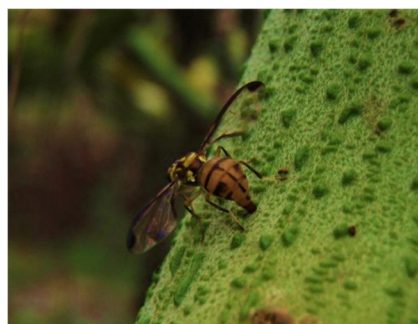


図6. へチマに産卵 (撮影地: 台湾)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス: <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>